

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

農作物名	病害虫名	発 生 程 度	
		現 況	予 想
きゅうり	うどんこ病	やや多	やや多
	褐斑病	並	並
	ミナミキイロアザミウマ	並	並
	コナジラミ類	並	並
トマト	黄化葉巻病	並	やや多
	コナジラミ類	並	並
	ハモグリバエ類	やや少	やや少
いちご (本圃)	うどんこ病	並	並
	炭疽病 (<i>G.cingulata</i>)	並	並
	アブラムシ類	やや多	やや多
	ハダニ類	やや多	やや多
	ハスモンヨトウ	並	並
ブロッコリー	べと病	並	並
	コナガ	並	並
	ハスモンヨトウ	並	並
	オオタバコガ	並	並
	アオムシ	並	並
かんきつ	ミカンハダニ	並	並

【発生予報】 本文の()内は平年値

きゅうり

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

11月上旬の巡回調査(8筆)の結果、発病葉率は5.1%(3.7%)、発生圃場率は62.5%(51.1%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

発生初期に防除する。薬剤耐性菌の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

2. 褐斑病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

11月上旬の巡回調査(8筆)の結果、発生を認めなかった(発病葉率0.1%、発生圃場率4.8%)

3. ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1 1月上旬の巡回調査(8筆)の結果、発生を認めなかった(寄生葉率0.0%、発生圃場率1.6%)

4. コナジラミ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1 1月上旬の巡回調査(8筆)の結果、寄生葉率は4.0%(6.1%)、発生圃場率は62.5%(65.0%)であった。

トマト

1. 黄化葉巻病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 1 1月上旬の巡回調査(10筆)の結果、発生を認めなかった(過去6ヵ年平均発病株率0.0%、発生圃場率4.2%)

イ 苗トラップによる調査の結果、7月の発病株数が多かった(表)。

表 トマト苗トラップにおける黄化葉巻病の発生推移

年次	調査地点	発病株数/トラップ1基		
		7月	8月	9月
H20	大村市	0.5	0	0
	南島原市	0	0	0
H21	大村市	1	0	0
	南島原市	0.5	0	0
H22	大村市	2	0	0
	南島原市	7.5	0	0
	雲仙市	0	0	0

注) 2~2.5葉期のセルトレー苗約30株/トラップを野外に5日間設置し、回収後コナジラミを殺虫。温室内に20日間維持した後、発病株数を調査した。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発病株の早期発見に努め、見つけ次第抜き取って適正に処分する。また、ハウス内外の雑草は病原ウイルスおよび媒介虫の発生源になるので除去する。

イ ハウス内のタバココナジラミの防除を徹底し、密度を極力低下させる。

2. コナジラミ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1 1月上旬の巡回調査(10筆)の結果、寄生株率は2.8%(2.2%)、発生圃場率は40.0%(34.4%)であった。

3. ハモグリバエ類

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

1 1月上旬の巡回調査(10筆)の結果、被害株率は2.5%(6.0%)、発生圃場率は30.0%(66.7%)であった。

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1 1月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発病株率は0.1%(0.3%)、発生圃場率は3.7%(4.6%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 罹病葉や不要な下葉はできるだけ除去し、圃場外へ持ち出し、処分する。

イ 薬剤は、古葉等を除去処分した後に、葉裏や下位葉にも薬剤がむらなくかかるように十分量を散布する。

ウ 薬剤耐性菌の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

2. 炭疽病 (*G.cingulata*)

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1 1月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発生を認めなかった(発病株率0.0%、発生圃場率5.6%)。

3. アブラムシ類

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

1 1月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は2.0%(1.6%)、発生圃場率は29.6%(19.4%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一薬剤は連用しない。

イ 本圃での天敵放飼を予定している場合は、薬剤によっては影響を与えるものがあるので、薬剤の選定及び使用時期に注意する。

4. ハダニ類

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 1月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は2.2%(1.8%)、発生圃場率は29.6%(18.5%)であった。

イ 向こう1ヶ月の気温は平年より高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

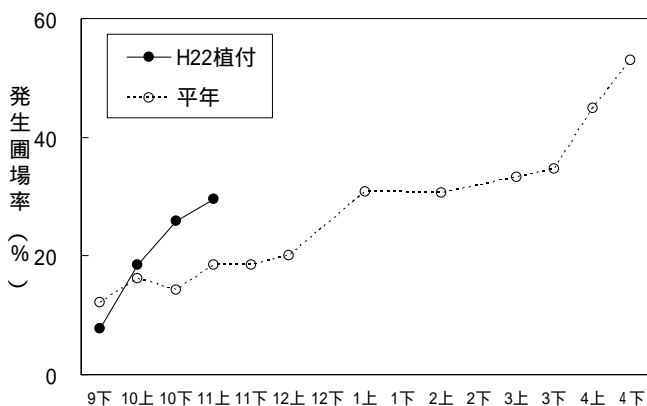


図 いちごハダニ類 発生圃場率の推移

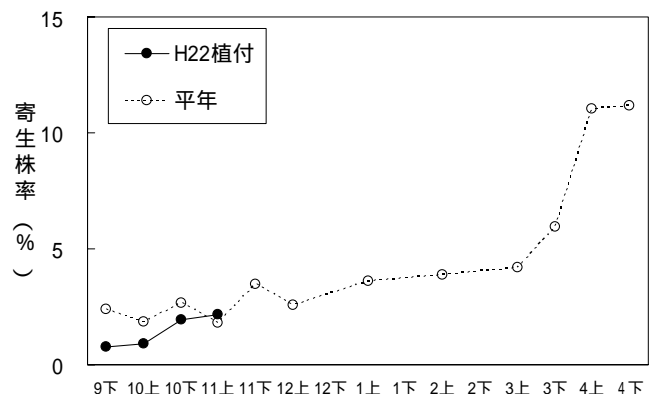


図 いちごハダニ類 寄生株率の推移

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 薬剤散布は下葉かき等、古葉の整理を行い、散布むらがおこならないように、葉裏まで付着するように十分量をていねいに散布する。
- イ 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一薬剤は連用しない。
- ウ 本圃での天敵放飼を予定している場合は、薬剤によっては影響を与えるものがあるので注意する。

5. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1 1月上旬の巡回調査(27筆)の結果、食害株率は4.0%(4.8%)、発生圃場率は59.3%(51.4%)であった。

ブロッコリー

1. ベと病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1 1月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(3カ年平均 発病株率0.2%、発生圃場率5.5%)。

2. コナガ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1 1月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生株率は3.3%(3カ年平均3.5%)、発生圃場率は58.3%(3カ年平均45.9%)であった。

3. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1 1月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生株率は3.0%(3カ年平均3.5%)、発生圃場率は33.3%(3カ年平均38.9%)であった。

4. オオタバコガ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1 1月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生株率は0.7%(3カ年平均3.5%)、発生圃場率は16.7%(3カ年平均13.9%)であった。

5. アオムシ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1 1月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生株率は0.3%(3カ年平均1.4%)、発生圃場率は8.3%(3カ年平均12.5%)であった。

かんきつ

1. ミカンハダニ

(1) 予報内容
発生程度 並

(2) 予報の根拠

11月上旬の巡回調査(39筆)の結果、寄生葉率は5.1%(7.7%)、発生圃場率は61.5%(53.2%)であった。

【参考】
気象

(平成22年11月12日発表 1か月予報 福岡管区気象台)

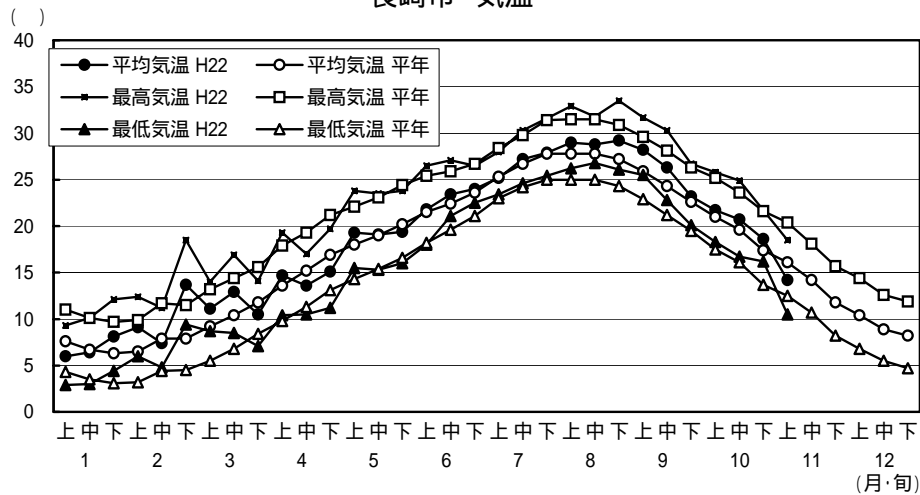
要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	30	30	40
降水量	40	30	30
日照時間	30	30	40

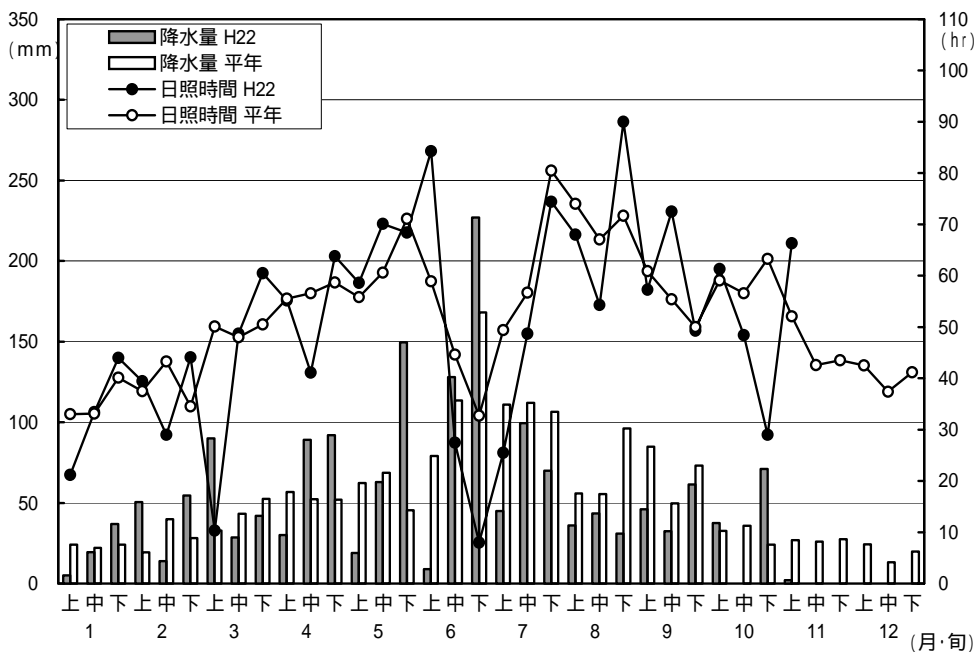
予報対象地域：九州北部地域

平成22年の気象経過 (長崎海洋気象台)

長崎市 気温



長崎市 降水量と日照時間



病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jpnpn.ne.jp/nagasaki/>

この情報に関するお問い合わせ

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027

